

令和7年度 学校園評価(関係者評価)シート

学校園名

加古川市立しかたこども園

1 教育・保育目標 「心豊かに感じ、自分らしさを発揮し、生き生きと遊ぶこども」

2 基本方針

- 集団生活の中で、一人一人が自分らしさを輝かせ、生き生きと遊べる環境をつくる。
- こども達の発達や学びと生活の連続性を考慮し、一人一人が自分の思いや考えをもって、主体的に生活できるようにする。

3 指導目標

- 生活リズムを整え、健康な心と体を育む。
- 身近な自然や環境に親しみ、科学性の芽生えを育む。
- ねばり強く、自らやろうとする意欲や態度を育む。
- 人と関わる喜びを感じ、愛情や信頼感を育む。
- よく見、よく聴き、よく考えて、自分の思いを表現する力を育む。

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:できていない

E:わからない

| 重点目標 | 評価項目 | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ(関係者評価) | 達成状況 |
|---------------------------------------|--|------|--|--|------|
| 基本的な生活習慣の確立と決まりある生活態度を育成する | <ul style="list-style-type: none"> ○早寝、早起き、食事、運動、挨拶などの生活リズムを整える。 ○思いきり体を動かして遊び、体力の向上を図る。 ○安全に生活するための集団生活のルールや約束を知り、守ろうとし、自分の気持ちをコントロールする。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝登園時、園長や職員が正門に立って挨拶をしたり、クラスでも挨拶の大切さについて知らせたりしたこと、自分から挨拶ができるこどもが増えてきている。引き続き心を込めて挨拶ができるよう指導する。 ・基本的な生活習慣の確立や生活リズムの大切さについて、園だより、保健だより、食育だよりを配信してきた。情報発信の継続と強化を行い、家庭と連携した生活リズムの定着を図る。 ・就学を控えた5歳児に対して管理栄養士による専門的な食育指導を実施したり、ヤクルトによる「おなかの教室」に参加したりすることで、食への関心と健康な体づくりへの意識を高める。 ・戸外遊びをさらに充実させ、思い切り体を動かす環境を整えることで、体力の向上と意欲的な活動を促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶などの基本的な生活態度の成長がよく感じられる。 ・広い園庭で伸び伸びと戸外遊びができています。 | A |
| 様々な体験活動を通して、人と関わる喜びを感じ、愛情や信頼感、自尊感情を育む | <ul style="list-style-type: none"> ○園児が安心感をもって登園し、保育教諭や友達に親しみをもてるような援助を心掛ける。 ○様々な人との触れ合いを通して親しみを持ち、相手の思いに気付き、その良さや違いを認め合えるように関わる。 ○園児の心の読み取りを意識しながら保育し、園児同士の心をつなぐ援助を心掛ける。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・個への理解と共感を深め、一人一人の心の変化を細やかに捉える視点を全職員で共有するとともに、こどもの思いに寄り添った関わりを継続する。 ・行事や地域へ出かけていく機会を通して、豊かな体験をしたり、様々な人と触れ合ったりする機会をもつことができた。園ボランティアや地域施設(ヴィラ播磨)、小中学生との交流を継続し、多様な人との交流を通して憧れや感謝の気持ちを育む機会をさらに充実させる。 ・こども同士の思いがつながるように、適切なタイミングで言葉の橋渡しを行い、自分たちで解決したり認め合ったりできるような環境と援助を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園バスを利用して地域へ出かけて行く機会をこれからもどんどんつくってほしい。 ・色々な所に行き、様々な人達と触れ合うことで、豊かな心をもつことができていると思う。 | A |

| 重点目標 | 評価項目 | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ（関係者評価） | 達成状況 |
|---|--|----------|---|---|----------|
| <p>豊かな遊びと経験の中で、豊かな感性や表現力、知的好奇心、科学性の芽生えを培い、生きる力を育む</p> | <p>○自然事象を話題にしたり、自然物に目を向けたり、虫や小動物を飼育したりして、興味や関心をもてるように保育する。</p> <p>○身近な自然や環境に親しみ、試行錯誤したり協力したりできる環境や援助を意図的に考えて保育する。</p> <p>○自分の考えたことや思いを言葉や身体で自分なりに表現し伝え合いながら、イメージを共有して遊べるよう関わる。</p> | <p>B</p> | <p>・こどもの興味関心に基づき、生き物や草花など季節に応じた遊びを楽しむことができたが、見つけた草花や生き物を大切に飾ったり、世話をしたりする経験が少なかったと感じる。生き物と関わることの楽しさや命の大切さを感じることができるような環境について保育教諭が意識をもって構成していく必要がある。</p> <p>・行事の準備や実施に追われ、日々の遊びが中断される現状を改善するため、行事のあり方やスケジュールの見直しを定期的に行い、こどもが主体的に遊びを展開できる時間を十分に確保する。</p> <p>・個々の発達年齢に応じた学びが継続するよう、試行錯誤や協同的な活動が生まれる素材や環境構成を職員間で共有し、援助の質の向上を図る。</p> | <p>・自然を楽しみ、生き物に興味をもつという素晴らしい経験が、これからもこども達の良い成長につながると思い、感動した。</p> <p>・一年を通して、豊かな遊びと経験から、こどもの成長を感じることができた。</p> | <p>A</p> |
| <p>地域・家庭・学校と連携、協働し、教育・保育を推進する</p> | <p>○地域に情報発信をして協力体制を構築し、地域環境を教育・保育に活用していく。</p> <p>○園児の家庭での様子や園での姿を伝え合い、園児の育ちを相互理解し、信頼を得る。</p> <p>○「学校園連携ユニット」の校種間連携を密にし、連続した学びを保障する。</p> | <p>A</p> | <p>・地域のイベント等への参加を継続しつつ、園の教育・保育活動への理解をさらに深めてもらえるよう、地域の方や関係施設との日常的な情報共有を強化し、相互に協力し合える体制づくりを模索する。</p> <p>・定期的な個別のおたよりやクラスだより、ドキュメンテーションの発信を継続し、保護者が園でのこどもの育ちを実感できるよう工夫する。また、家庭での様子を共有し合う機会を充実させ、園と家庭が一体となってこどもの育ちを支える相互理解を深めることを目指す。</p> <p>・ユニット会議等を通して、園のねらいやこどもの姿、育ち、行事等について丁寧に情報を伝え、学びの接続を意識した。連続した学びを保障するためには、幼児期の学びがどのようなことであるのか、保育教諭が学びを見取る力をつけなければならない。その上で、学びを小学校にどのように引き継いでいくのか、ドキュメンテーションや本園の接続カリキュラムを用いて小学校教育につないでいけるよう努めたい。</p> | <p>・地域との関わり合いは大事なことで、こども園で積極的にしてもらえることはありがたいと思う。</p> <p>・学校園連携ユニットの校種間の連携が充分にできている。</p> | <p>A</p> |
| <p>保育教諭としての専門性を磨き、資質の向上を図る</p> | <p>○研修を積み、専門性を高めることで、保育の質をより向上させる。</p> <p>○人権感覚を磨き、保育教諭一人一人の良さを発揮しながら、園児のモデルとなる自分を意識して研鑽する。</p> | <p>B</p> | <p>・園内研修に加え、園外の研修に積極的に参加することができたが、今後も、こどもの興味に添った主体的な遊びが展開できるような環境構成を日々の保育計画や反省、園外の研修などを通して学んでいく必要がある。</p> <p>・勤務体制によって研修参加が困難な現状を踏まえ、オンライン研修の活用や勤務時間内でのローテーション調整等、全職員が専門性を高められるような体制の工夫をする。</p> <p>・定期的実施している人権・倫理研修を今後も継続し、日常的に保育場面を振り返りながら、職員同士で考え合う機会を積極的に設ける。園児のモデルとなる立場として、常に人権意識を高めていく必要がある。</p> | <p>・何かと忙しい中、少しでも研修をとの気持ちがありがたく思う。</p> <p>・忙しい保育の中、できる限りのことをしていることや新しいことを学んだり、工夫したりしようとしていることだけでも十分よく考えてもらっている。</p> <p>・園外研修に参加する機会を次年度も引き続き増やしてもらいたい。</p> | <p>A</p> |